

るぴなす便り

平成 23 年 05 月 13 日発行 第 14 号

◆ 発行 ◆

社会福祉法人 北海道社会福祉事業団
胆振圏域障がい者総合相談支援センター
るぴなす

〒052-0014 伊達市舟岡町 334 番地 9

電話・FAX 0142-22-3200

新年度を迎えるにあたって

時のたつのは本当に早いものですね。広域相談支援体制整備事業を受託し、22年度も障がいがあってもなくても暮らしやすい街づくりを目指し活動してきましたが実際の所はどうだったのか、振り返る間もなく23年度を迎えてしまいました。22年度は通称、北海道障がい者条例が本格施行され「障がいがあることによって差別や虐待も受けることのない、暮らしやすい地域づくりを推進して行くことが明文化されましたが、実際に暮らしやすい地域づくりにはなにが必要なのでしょう。条例では地域づくりの推進、権利擁護、就労支援がうたわれ、総合的に取り組むことで暮らしやすい地域づくりを進めていくことになっています。確かに障がい者が暮らしやすい地域づくりというと、福祉に関係する事業所の数や障がい者を受け入れる企業の数、バリアフリーの充実度など、目に見える形の充実度を高めたり、個別に障がいのある方一人一人の生活がより良くなるような支援体制、連携体制づくりが必要です。その上で、最終的には地域で暮らす障がいのある方もない方も含め、皆さんの意識を変えていくことが何よりの課題になります。目に見えるものではないので具体的に測れるものではありませんし、一気に進むものでもありません。障がいのある方に関係している人だけで暮らしやすい街づくりを進めるのではなく、地域全体の課題として各市町の皆さんと協力して取り組んでいけるよう地道に一步ずつ地域づくりを進めていきます。

よろしくお願いたします。

2年間ありがとうございました

昨年、8月に施行された入所施設事業転換促進交付金ですが、22年8月から12月までの期間中に全道で15施設337名分の定員削減計画が承認されました。その内8施設169名分の定員削減に係る協議会に出席することができました。また23年2月から3月にかけては5施設76名分の協議会に出席し、あわせて245名の定員削減に係ることができました（そのうちの2施設については入所部門の廃止を予定されています）。

平成21年度から地域生活移行支援コーディネーターとして活動させていただきましたが、今年度からは地域づくりコーディネーターの業務に統合されることとなり、これからは各圏域の地域づくりコーディネーターが地域移行に向けた機関支援や、入所施設利用者の動向把握などを施設の方の協力をいただきながら進めていくこととなりました。よろしくお願いたします。

この2年間訪問させていただいた各事業所、市町村窓口の皆さんには貴重なお時間を割いていただきありがとうございました。入所施設事業転換促進交付金もあり2年目はより多くの方の地域移行にかかわらせていただきました。より充実した生活支援のために日々努力している事業所の皆さんとともに地域生活移行についてお手伝いをさせていただけたことに感謝しております。本当にありがとうございました。

地域生活移行支援コーディネーター短信

保護者向け地域生活の様子説明会

白老愛泉園（白老町）

2月19日、白老愛泉園の家族の会研修会に参加させていただき、保護者の方向けに地域生活の様子について説明会を行わせていただきました。地域生活を希望される入所施設の利用者にとって移行に際し課題となることは収入と、家族の理解が良くあげられます。本人主体の地域移行を目指しつつも実際となると特に知的の入所施設では保護者の理解がスムーズな地域移行に向けては必要となります。保護者の方の思いはいろいろありますが反対する理由として特に、親の高齢化や経済的不安、地域の受け入れ体制に脆弱さを感じていることをあげられていました。

保護者はなぜ地域生活に不安を感じるのか、それは保護者も地域生活についての情報が不足しており、より分かりやすく地域生活の様子を伝える必要があると感じ今回の説明会となりました。

プログラムとしてはパワーポイントを使用してのプレゼンテーションと、DVDの視聴、ピアサポーターの生活発表と、すでに地域生活へ移行した利用者の保護者からのアドバイスで行いました。

どの話も皆さん真剣に聞いていましたが、特に先輩保護者からのアドバイスと月間収支の話は身を乗り出して聞き入る保護者の方が多い状況でした。先輩保護者からの話では、当初は皆さんと同じく地域生活は難しいだろうと思っていたこと、それでも信頼する施設職員からの勧めと受け入れする側の職員の積極的な姿勢に後押しされ地域移行に踏み切ったこと、実際に地域移行をした後は、本人の自主性、社会性が良い方向で増したことを話していただきました。地域生活に出す前の不安と、出た後の本人の変化について伝えていただいたことで、地域生活に関する不安と疑問解消の一助となりました。

また、地域生活の収入と支出についても、確かに地域生活の方が支出面でまだ多いのは事実ですが、年々その差は縮まっていること、10月からは家賃補助が付く場合があることなどを説明し、極端な負担増にはならないことを伝えることで、安心を担保することができました。

地域移行に向けて解決すべき課題はいろいろありますが、このような形で機関支援を行うことでも地域移行を進める一助になればと活動しています。保護者に限らず利用者向け、職員向けなど行えますのでお声掛けいただければ幸いです。



活 動 報 告

11/18 平成 22 年度胆振圏域発達障がいに係る「発達障害者支援センター事業の説明」並びに「発達障がいに関する学習会」(特別アドバイザー派遣事業)

白老町総合保健福祉センター「いきいき 4・6」にて、北海道発達障害者支援センターあおいそらのコーディネーター片山氏による、①説明会と②学習会を開催致しました。

主な内容は、①発達障害者支援センター事業の取り組み等の説明と②基礎知識や支援技術等についての学習、グループワークによる情報交換が行われました。

当日の参加者は、相談支援専門員や保育士・保健師等の実務者を中心に①が 31 名②に 48 名となりました。

参加者より、①講師派遣や自立支援協議会への出席依頼。②具体的で分かりやすい内容だった等の感想がありました。

11/25 第 2 回胆振圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会

胆振総合振興局 3 階大会議室にて、第 2 回胆振圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会(以下、委員会)が開催されました。

内容は、委員会への申し立て状況の説明の他に次の通りです。

- ①圏域内の市町村地域生活支援事業の実施状況
- ②圏域内の障害福祉施設と福祉サービス事業所の指定状況
- ③広域相談支援から見た条例施行後の圏域の現状
- ④圏域内の地域移行に関する取り組み状況

を中心に、地域づくり推進員と各委員 10 名が出席され、確認や意見交換が行われました。

具体的には、条例の普及啓発の必要性や福祉サービス提供の充実、サービス従事者の人材確保、就労支援等について意見が出されました。

今後、委員会の役割がより期待されると思います。

また、③と④については、るびなすの地域づくりコーディネーターと地域生活移行支援コーディネーターが説明を致しました。

12/18 第 3 回胆振圏域障がい者ケアマネジメント連絡協議会

今年度 3 回目となる、胆振圏域障がい者ケアマネジメント連絡協議会(以下、ケアマネ協議会)が西いぶり地域生活支援センター(登別市)で開催されました。

ケアマネ協議会は、胆振圏域内においてケアマネジメントの手法を用いた相談支援を実践している者同志の連携を深め、担当者のスキルアップ並びに地域における相談支援体制の構築・推進等を図ることで利用者の生活の質を高めることを目的として年 3 回開催し、今年度は最後となります。当日は 21 名の会員が出席し、午前に行われた幹事会報告と今年度の活動実績、平成 23 年度の活動内容の確認が行われました。

また、学習会では事例検討を 3 名の会員から事例提供が行われました。

尚、平成 23 年度の第 1 回目は、5 月 21 日(土)の開催です。

※ご入会や参加のお問い合わせは、るびなすへ 0142-25-3838 (TEL&FAX)



12/22 胆振圏域市町障がい福祉担当者情報交換会

苫小牧市役所 7 階会議室にて、胆振圏域内の 11 市町の障がい福祉(相談支援)担当職員を対象とした情報交換会を開催し 9 市町から 10 名の出席がありました。

主な内容は、福祉サービスに関する情報交換を中心に行い、顔の見える連携を強化することが出来たと思います。

また、胆振総合振興局の条例担当者も出席し、圏域内の取り組み状況等について説明や意見交換が行われました。

1/31 第 2 回胆振圏域障がい者地域生活支援連絡会議

胆振総合振興局 2 階会議室にて、今年度 2 回目の胆振圏域障がい者地域生活支援連絡会議（以下、連絡会議）を開催し、19 名の出席となりました。

今回の連絡会議では、胆振総合振興局の条例担当者からの説明や当センターから活動報告、出席する各団体より日常の支援業務について、情報交換が行われました。



2/25 研修会「共生型を中心に地域づくりを考える」(特別アドバイザー派遣事業)

さる 2 月 25 日、伊達市コスモスホールにおいて、全国に先駆けて「富山型デイサービス」を実践してこられた NPO 法人「このゆびとーまれ」の惣万佳代子氏をお招きして、誰もが地域で共に暮らすために何が必要なのか、何を大切にしていけばよいのかについて学ぶ研修会を開催しました。

合わせて胆振圏域内での実践例として「いぶりたすけ愛」管理責任者角井かおる氏、「おたがいサロン」代表藤田美智代氏からも実践報告をしていただくとともに、「伊達コスモス 21」統括所長大垣氏をコーディネーターとしてシンポジウムも行いました。

シンポジウムでは、おたがいサロン藤田氏の地域のニーズが「赤ちゃんからお年寄りまでどなたでも」の形となり共生型になった経過や、いぶりたすけ愛角井氏からは市民互助組織として対等平等の立場で助けあう有償ボランティアから始まり、こちらも地域のニーズに答える中で共生型となっていたことが語られとても興味深い実践報告となっていました。

惣万氏の講演も随所に笑いを織り込みながらも「だれもが、地域で、ともに暮らす」を理念に年齢や障がいに関係なく、誰もが地域で共に暮らせる町づくり考えることの大切さを教えていただくことができました。またこのゆびとーまれを惣万氏とともに立ち上げた西村氏からも看取りについてご講演をいただくことができ、実りある時間を過ごすことができました。



忙しい中、ご参加をいただいた 133 名の皆さんとともに、惣万氏の講演や胆振圏域での実践報告などを通じて「共生」という考え方、その本質を理解することができたような気がしたひと時となりました。地域生活を支援する市町・相談支援事業者・サービス提供事業者など福祉に携わりつつもちょっとずつ立場の違う皆さんとともに、本当に住みやすい街づくりについてどのように取り組んでゆくべきか考える良い機会となりました。

ご講演いただいた惣万さん、西村さん、角井さん、藤田さんはもちろんの事、ご参加いただいた皆さん本当にありがとうございました。

あ と が き

この 4 月にスタッフの異動があり、菊池センター長はだて地域生活支援センターに異動となりました。今年度は岩森、西田とともに、新スタッフとして、就業・生活支援センターから道川さんを迎え、新体制で業務に当たらせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。(N)

この度 4 月より胆振日高障がい者就業・生活支援センター「すて〜じ」から異動して参りました道川枝美子です。「るぴなす」の業務は未知の分野の仕事で不安もありますが、私なりに一生懸命に勉強して参りたいと思います。いろいろ皆様に教えていただくことも多いと思いますが、どうぞよろしくお願致します。(M)